

# 論文内容の要旨

氏名	内山 彬光	専攻名	社会開発工学専攻	学籍番号	09TA303F
論文題目	地方都市における土地利用と生活利便性の空間分析				
<p>近年、地方都市において郊外のスプロール化と中心市街地の空洞化が問題となっている。郊外では不十分な区画整理により無秩序に宅地化が進み、住宅の密集による災害時の脆弱性などの危険を抱えている。また、自動車を持たない生活者の商業店舗へのアクセス性にも影響を与えるなど、変容する都市が良好な生活環境を維持しているとは言えないため、都市構造と生活環境にずれが生じないような計画が求められる。</p> <p>そこで本研究では、都市構造については土地利用、生活環境については利便性に着目する。そして土地利用の変遷と生活利便性の現状を把握するとともに、この2点を照らし合わせ、課題を明らかにする。</p> <p>本研究では長野県上田市を対象とし、まず、GISを用いて非連続な3年分の衛星画像について土地被覆分類を行い土地利用の変遷を把握し、地区レベルで市街地と人口との関係を調べた。次に、生活利便施設について都市基盤、人口との関係から導出した利便性の潜在要因を基に対象地を類型化し、その特徴を把握した。また、高齢者の生鮮食料品店へのアクセス性が極端に悪いエリアを抽出するための「フードデザートマップ」を作成した。さらに、生活利便施設と人口の分布を比較し地域ごとの特徴を把握した。</p> <p>その結果、土地利用の変遷については、特に郊外における市街地の拡大が明らかとなり、地区レベルで市街地と人口との関係を見ると、上田城南地域、塩田地域北部などの郊外は市街地が増加しており、人口も増加傾向にあった。一方、上田中央地域の中心市街地は、市内で最も市街地割合が高いが人口は減少傾向にあることがわかった。生活利便性による対象地の類型化については、上田城南地域で現在建設中の大規模集客施設が完成した後を想定すると、類型化に違いが出るのがわかり、既存の中心市街地と郊外の地域の両方を変容させるきっかけとなることが予測できた。また、上田西部地域や上田城南地域など中心市街地の周りのエリアは、徒歩による生鮮食料品店へのアクセス性が悪いことがフードデザートマップから読み取ることができ、さらに、生活利便施設より人口の方が多く分布していることから、良好な生活環境が維持されていないことがわかった。</p> <p>今後、生活者の視点を考慮した都市計画をする際は、広範囲を見るだけでなく、本研究のように詳細な範囲で現状を明らかにすることで地域ごとの具体的な問題を抽出し、都市の将来像を設定することが重要である。</p>					